

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
卒業研究 Graduation Research		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	隅野 努・手島 史子 村上 芳明・福屋 いずみ	
概要				
<p>子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけて出す。その成果を卒業研究・保育総合研究発表会で、展示もしくは舞台上で発表する。最後に、報告集にまとめる。</p>				
到達目標				
<p>(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>平成30年度は、下記のようなテーマで研究が行われた</p> <p>① 不快学びにつながる社会科の提案型授業のあり方 —5年生「自動車をつくる工業」の授業から— ② ユニバーサルデザインを取り入れた算数科授業のあり方 —4年生「3けたわる2けたの筆算」の授業から— ③ 算数科の授業の研究 —4年生「平方メートル」の授業から— ④ 児童との信頼を深めることのできる学級経営の工夫 ⑤ ワーキングメモリーの観点からみた授業デザイン —支援方略のチェックリストを参考に— ⑥ 障害児者理解の現状と課題 ⑦ 油彩画 —「塔と月」— ⑧ 「孤独死」についての現状とこれからの取り組み ⑨ 「ねばならない」を持つ教師の悩みとその対策 ⑩ 怒りに対する援助行動と性格の関連</p>				
テキストおよび 参考文献	必要に応じて自分自身で選択、購入すること			
メッセージ など	2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出がない。	レポート (知識・理解・技能・判断力)	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めているところに力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	活動への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力)	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表会での発表(表現力)	10%
(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	報告集原稿の作成 (思考力・表現)	20%